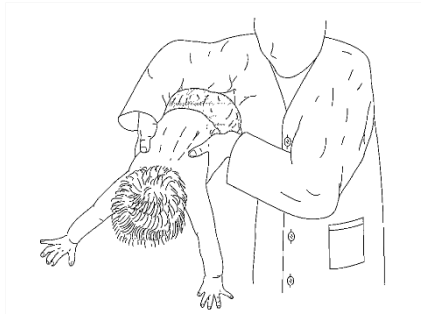


小児：反射

43-090 小児を急に頭の方から前方に倒した時に、図のような反応が出現する最も早い時期はどれか。

1. 生後 2～4 か月
2. 生後 6～8 か月
3. 生後 12～14 か月
4. 生後 16～18 か月
5. 生後 20～22 か月



45-A-085 新生児に見られないのはどれか。

1. ホッピング反応
2. 交叉性伸展反射
3. 陽性支持反応
4. 逃避反射
5. 把握反射

47-P-090 生後 10 か月の健常乳児でみられるのはどれか。

1. Moro 反射
2. 手の把握反射
3. 緊張性迷路反射
4. パラシュート反応
5. 非対称性緊張性頸反射

50-A-088 物につかまらず立てる乳児においてみられるのはどれか。

1. 自動歩行
2. Moro 反射
3. 手掌把握反射
4. パラシュート反応
5. 非対称性緊張性頸反射

50-P-087 原始反射とその説明の組合せで正しいのはどれか。

1. Moro 反射——両上肢の拳上
2. 緊張性迷路反射——腹臥位での四肢の伸展
3. 非対称性緊張性迷路反射——顔を向けた側の上下肢屈曲
4. Galant 反射——刺激側が凸になる体幹の側屈
5. 台のせ反応——刺激側足関節の底屈

小児：発達段階

42-087 つたい歩きを行っている時期にできないのはどれか。

1. バイバイをする。
2. 玩具を引っ張ると抵抗する。
3. 2 語文を話す。
4. 親指を使って干しぶどうをつかむ。
5. 両手の積み木を打ち合わせる。

44-069 改訂日本版デンバー式発達スクリーニング検査 (DDST) で通過率 75～90%の期間がほぼ 11～12 か月なのはどれか。

1. ボールを蹴る。
2. 支えなしに座る。
3. 検者とボール遊び。
4. パパ、ママ以外に 3 語言う。
5. 両手の積み木を打ち合わせる。











47-A-090 小児の正常発達で最も速く可能になるのはどれか。

1. 高這いをする。
2. 橈側手指握りをする。
3. つかまって立ち上がる。
4. 背臥位で足を口に持っていく。
5. 座位で上肢の後方保護伸展反応が出る。

52-P-091 10 か月の正常児でみられるのはどれか。

1. Moro 反射
2. 手の把握反応
3. 緊張性迷路反射
4. パラシュート反応
5. 非対称性緊張性頸反射

48-P-090 姿勢発達の順序を矢印で示す。正しいのはどれか。

1.  ⇒ 
2.  ⇒ 
3.  ⇒ 
4.  ⇒ 
5.  ⇒ 

49-A-085 改訂日本版デンバー式発達スクリーニング検査(JDDST-R)において 90%通過率が6~8か月なのはどれか。

1. 手に持ったビスケットを自分で食べる。
2. 手に持ったコップから自分で水を飲む。
3. 声(呼びかけ)に振り向く。
4. つたい歩きができる。
5. 人の顔を見つめる。

50-P-088 小児の正常発達で最も早く可能になるのはどれか。

1. 手掌握り
2. 高這い移動
3. 1人で座る
4. つかまり立ち
5. バイバイをする

54-A-086 改訂日本版デンバー式発達スクリーニング検査(JDDST-R)の個人-社会領域で最も早く可能になるのはどれか。

1. 手を洗ってふく。
2. 簡単なお手伝い。
3. コップから飲む。
4. 上着などを脱ぐ。
5. ビスケットを自分で食べる。

54-P-085 Milani 運動発達評価表における反射や運動のうち消失する時期が最も遅いのはどれか。

1. 手掌把握反射
2. 自動歩行
3. 足底把握反射
4. 非対称性緊張性頸反射
5. Moro 反射

小児：脳性麻痺

46-P-091 脳性麻痺で誤っているのはどれか。

1. 痙直型四肢麻痺では出生時から筋緊張が高い。
2. 痙直型両麻痺では上肢よりも下肢の障害が強い。
3. アテトーゼ型では緊張性頸反射の影響を受ける。
4. 精神的緊張でアテトーゼ型の不随意運動は増強する。
5. アテトーゼ型四肢麻痺では下肢よりも上肢の障害が強い。

48-A-83 脳性麻痺で正しいのはどれか。

1. アテトーゼ型では下肢より上肢の支持性が良い。
2. アテトーゼ型では初期は低緊張である。
3. 痙直型では出生直後から筋緊張が亢進する。
4. 痙直型両麻痺では下肢より上肢の麻痺が重度である。
5. 痙直型片麻痺では上肢より下肢の麻痺が重度である。

49-A-093 脳性麻痺の周産期における危険因子として可能性が低いのはどれか。

1. 緊急帝王切開による出生
2. 脳室周囲白質軟化症
3. 低カリウム血症
4. 新生児仮死
5. 低血糖

49-P-090 GMFCS(grows motorfunction classification system)extended and revised)について正しいのはどれか。

1. 6つのレベルがある。
2. 環境要因を除外している。
3. 4つの年齢帯に分けて記載がある。
4. 脳性麻痺の重症度の判別に使われる。
5. 脳性麻痺児を臥位と立位の能力から分類する。

51-A-089 6~12歳におけるGMFCSレベルと動作能力の組合せで正しいのはどれか。

1. I——階段で手すり使用
2. II——装具なしで歩行
3. III——不整地の歩行
4. IV——通常の椅子で座位保持
5. V——寝返り可能

小児：その他

54-P-086 乳児の水頭症でみられる症状はどれか。

1. 肥満
2. 口蓋裂
3. 運動失調
4. 落陽現象
5. 弛緩性麻痺